

Google の新機能「Streetscape Geometry」を利用した AR コンテンツの技術検証を実施

～街の風景に溶け込む没入感の高い AR コンテンツの制作が容易に～

株式会社 NTT QONOO（以下、コノキュー）は、米国時間 2023 年 5 月 10 日（水）に Google LLC（以下、Google）より発表された ARCore Geospatial API の新機能となる「Streetscape Geometry」（以下、本機能）を利用した AR コンテンツの技術検証を実施しました。本機能を利用することにより、現実空間の建物と AR オブジェクトの前後関係を考慮して AR オブジェクトの一部が隠れて見える表現（＝オクルージョン表現）が可能となり、街の風景に溶け込んだ没入感の高い AR コンテンツを容易に制作することができるようになります。



ウルトラセブンとキングジョーの戦闘シーンの AR コンテンツ

本技術検証では、株式会社円谷プロダクションの協力を得て、ウルトラセブンの戦闘シーンを再現した AR コンテンツを制作いたしました。

本コンテンツは、2023 年 5 月 10 日（水）に発表した『ウルトラセブン』55 周年コンセプトムービー「ウルトラセブン IF Story 『55 年前の未来』」公式コンテンツとして、コノキューが提供する体験型謎解きイベントの展開エリアにて、今後体験できる AR コンテンツとしての公開を検討中です。^{※1}

※1 「Streetscape Geometry」の「XR City」アプリへの実装、及び、本コンテンツの一般公開時期は検討中のため、未定となります。

報道発表：2023年5月10日

『ウルトラセブン』55周年コンセプトムービー「ウルトラセブン IF Story『55年前の未来』」公式コンテンツ！

XR City を活用した<体験型謎解きイベント>を NTT コノキューが提供

https://www.nttqonoq.com/news/20230510_01.pdf

Google ARCore Geospatial API の Streetscape Geometry とは

本機能は、ユーザの現在地から半径 100m 以内の建物の 3D モデルデータを取得する機能です。現実空間の建物と AR オブジェクトの前後関係を考慮して AR オブジェクトの一部が隠れて見える表現（＝オクルージョン表現）や、現実空間の建物に跳ね返るような表現、特定の建物に AR オブジェクトを貼り付けるといった表現が可能となり、現実空間に溶け込んだ没入感の高い AR コンテンツ開発が可能となります。



オクルージョンなし



オクルージョンあり

これまで AR コンテンツで建物によるオクルージョン表現を実現するためには、AR コンテンツを表示する周辺の建物の 3D モデルを作成し、その 3D モデルと現実空間の建物の位置とを合わせた上で AR コンテンツを制作する必要がありました。

本機能を使用することで、ユーザが AR コンテンツを再生する際に自動的に現在地周辺の建物の 3D モデルデータを取得し、前述の作業をすることなく建物によるオクルージョンを表現することが可能となります。

また、これまでは特定の場所でしかオクルージョン表現を実装した AR コンテンツを提供できませんでしたが、本機能を利用することで、ユーザはどこでも没入感のある AR コンテンツを体験できるようになります。

今後は本機能をコノキューが提供する XR City 等の AR サービスに実装し、本技術検証で作成した AR コンテンツだけでなく、LOST ANIMAL PLANET^{※2} 等の XR City で提供する AR コンテンツも、より没入感の高い体験を提供していく予定です。



LOST ANIMAL PLANET でのオクルージョン表現のイメージ

※2 LOST ANIMAL PLANET サイト

<https://xrcity.docomo.ne.jp/contents/lostanimalplanet/>

*「ARCore」は、Google LLC の商標または登録商標です。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 NTT コノキュー

xrcity_platform.info-ml@ml.nttqonoq.com